

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夢をかたちに (Scale up your Dream, and Build up your Future.)

*生徒が自らの進路に夢や希望を抱き、高い志を持ってその実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、地域社会に積極的に参画し貢献できる人材を育成する学校をめざします。

【生徒に育みたい力】 日根野高等学校 校訓「自立・共生・友愛」

- 1 高校三年間の様々な体験的学習を通し、発見・驚き・感動を自信に繋げ、将来の夢を見定め実現していく力。
- 2 地域社会の発展に寄与するための高い志を持ち、自らを律し社会人として自立する力。【自立】
- 3 異文化や異なる価値観を理解し、身の周りから世界に至るまでの様々な人々と共生できる力。【共生】
- 4 ボランティア活動等の実践を通し、基本的人権を尊重し社会に奉仕貢献できる力。【友愛】

2 中期的目標

1. 将来の夢を自ら見定め、自立・実現していく力を育む

- (1) わかる授業、進路実現を見据えた授業をめざし、授業改善に取り組む。
 - ア、習熟度別授業と演習科目を充実させ、基礎学力及び受験学力の向上に資する授業を展開するとともに、補習・講習の講座充実を図る。
 - イ、泉佐野市や地元大学等と連携し、出前授業など外部人材を活用し、専門コースに合わせた体験的授業(看護医療・保育)を推進する。
 - ウ、主体的・対話的で深い学びを育むため、ICT等を活用しコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を開発する授業を研究・推進する。
 - エ、語学教育、歴史教育や政治的教養、読書活動など多様で体験的な学習機会を通じ、異文化や異なる価値観への理解を深め、幅広く自らの進路選択に繋げる。
自主学習時間の増加 (H30:83分 H31:2時間以上 2021:2時間以上) ICTを活用した教材や授業への生徒満足度 (H30:97.0% H31:97% 2021:97%)
プレゼンテーション能力が十分に身についたとする生徒の肯定的回答率 (H30:73.9% H31:75% 2021:80%)
- (2) 特色ある専門コースを持つ普通科高校として、自己実現性の高い進学を志向する。
 - ア、新学習指導要領と高大接続改革を踏まえ、生徒のニーズに適合する選択的で専門的なカリキュラム編成を行う。
 - イ、コースや科目選択時の生徒の満足度をあげるとともに、専門コースを選択する生徒の比率 40%を目途にバランス良くガイダンスする。
 - ウ、世界を相手に飛翔するグローバル人材、国際感覚を身に付けて地域社会に貢献するグローバル人材をバランス良く輩出する。
 - エ、もっと入りたい学校へ。本校のアドミッションポリシーに合致した入試志願者を安定確保する。
専門コース選択・科目選択に関する生徒満足度 (H30:87.8% H31:88% 2021:90%) ガイダンスに関する満足度 (H30:90.0% H31:90% 2021:90%)
国公立大学・難関私立大学(関関同立・近・関西外大)進学者数 (H30:20名 H31:30名 2021:40名)
児童保育系進学者数、看護医療系進学者数 (H30:児童保育系22名 看護医療系58名、 H31:40名超 50名超、2021:40名超 50名超)
選択した科目が進路実現に役立った (H30:77.3% H31:80% 2021:85%) 入試志願者倍率 (H30:1.21倍 H31:1.2倍超 2021:1.2倍超)
- (3) 進路に夢や希望を抱き、社会の一員として自立し、その発展に寄与するという高い志を身につける。
 - ア、志学・道徳教育・人権教育・キャリア教育・進路指導を系統的に結合した「ひねのプログラム」を活用し、生徒の学習意欲の向上を図る。
 - イ、分野別進路説明会や進路適正検査・面接試験指導に注力し進路選択のミスマッチを回避、自己の進路実現を図る。
 - ウ、社会保険労務士や司法書士、民間経営者などの外部講師を招聘し、社会人としての心得など、身近な問題に触れ意識付けを図る。
進路選択やキャリア教育に関する満足度 (H30:92.5% H31:93% 2021:95%)

2. 道徳教育・人権教育を基盤に、地域社会と連携しまた貢献する志と力を育む

- (1) 「いじめ防止基本方針」の実施と道徳教育・人権教育を推進する。
 - ア、「いじめ防止基本方針」に従い、全校でいじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む。
 - イ、社会性にも繋がる生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る。
 - ウ、障がい者・女性・子ども・同和問題・在日外国人・性的マイノリティ等様々な人権に関わる問題の解決をめざした教育を推進する。
命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった (H30:80.7% H31:82% 2021:85%) のべ遅刻者数/4-12月 (H30:3,584人 H31:2,800人 2021:2,000人)
- (2) 急速に普及するスマートホンに係るネットと人権侵害理解についての取組みを推進する。
 - ア、スマホの急激な普及によって起こっているインターネット上の諸問題に対し、情報と社会の授業や各学年のHR等で学習し対応に取り組む。
 - イ、保護者への啓蒙活動を研修等により継続するとともに、保護者と教職員とがさらに連携を深め、生徒一人ひとりを大切に人権教育の充実を図る。
保護者向け教育相談に関する満足度 (H30:82.9% H31:85% 2021:85%)
- (3) 部活動や各種の地域ボランティア活動への参加を通じ、生徒の社会的貢献を図る。
 - ア、生徒会やボランティア部を中心に、生徒主体による地域での社会貢献活動の取組みを推進する。
 - イ、学校周辺の商業施設や学校と連携し、部活動の発信・発表の場を多く設けることで、生徒が社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解する。
 - ウ、「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則り、生徒や指導教員にとって合理的で効率的・効果的な部活動を推進する。
部活動加入率 (H30:74.2% H31:75% 2021:80%)
- (4) 学校運営協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取りいれるとともに、HPやメールマガジンで学校の取組みを情報発信する。
 - ・保護者向け学校教育自己診断における「教育活動」に対する満足度について、さらなる向上をめざす。
教育活動に関する満足度 (H30:82.0% H31:85% 2021:85%) 教育情報についての提供努力満足度 (H30:87.4% H31:88% 2021:90%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】生徒アンケートでのICT機器活用「プロジェクターを有効に活用した授業が行われている」に関しては、昨年度までの単に使われているという設問から変更をしたこともあり、昨年度よりも11ポイントダウンしたが、肯定的回答が86%であったことは、プロジェクターを中心に効果的に活用されていると考える。今後もさらに効果的な活用を進めていきたい。また生徒アンケートによる「発表する力が十分身についた」の肯定的回答は昨年度より7ポイント減少。情報科でのプレゼンや国語科でのビブリオ等の取り組みを積極的に行っているが、力がついたと感じていない生徒が一定数いる。今後も取り組みを続けると共に、生徒自身力が身についたと実感できるよう、指導法や発表の場の工夫も行っていきたい。</p> <p>【生徒指導等】生徒向けアンケートで「先生の指導は納得できる」の肯定的回答は70%で昨年度と変化はないが、頭髪や服装指導などを行う際に、生徒に丁寧に説明するなど、さらに納得させる指導に取り組みたい。生徒用アンケートで「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」の肯定的回答は72%と昨年度と変化はないが、担任だけでなくいろんな先生が生徒の相談にのれるようカウンセリングマインドを身につけ、生徒が気軽に先生に相談できる雰囲気を作っていきたい。</p> <p>【学校運営等】生徒アンケート「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった」の肯定的回答は83%で昨年度よりも2ポイントアップした。人権教育等のHR活動だけでなく、今後も授業やさまざまな場面で機会を設けていきたい。生徒アンケートで「学校行事は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答は73%で昨年度より7ポイントダウンした。生徒が自主的に活動、運営するよう工夫を行うなど、行事やクラブ活動を通じ、自己肯定感を高めていきたい。</p>	<p>【第1回(5月24日実施)】アクティブラーニングは、小中学校でも積極的に行われているので、高校でもさらに積極的に取り組んでもらいたい。早い段階からオープンキャンパスに参加させ、進路に対する意識づけを行うことは大切であるので、今後も継続して指導して欲しい。障がいのある生徒へのケアや、性的マイノリティに対する認知や対応についても積極的にやって欲しい。ボランティア活動等、社会貢献の取り組みの機会を増やし、生徒が積極的に取り組むようにして欲しい。</p> <p>【第2回(9月20日実施)】中学生が高校を選択する際のために、どういった進路が保障されているかやクラブ活動について発信すればよい。吹奏楽部の活動など地域での活動は楽しみにしている方も多い。今後も継続していけばよい。教員の働き方改革に関しては、こまめに面談を行うなど、労務管理をしっかりと行ってほしい。オープンスクールに在校生が関わっていることがよい。中学生や保護者が在校生の雰囲気を見られるのがよいので、今後も同じ形で実施すればよい。</p> <p>【第3回(1月24日実施)】学校教育自己診断の保護者の回収率が低いので、Web上から答えられるアンケートも作成するなど、回収率を高める工夫を行って欲しい。授業に関してのアンケートについては、分かりやすいや楽しいというアンケートの数値にあまり左右されず、進路実現に必要な内容を含んだうえで、分かりやすく興味を持てる授業を先生方で考えて欲しい。また、授業についていけないということをなくすためにも、遅刻をなくし授業を大切にしよう指導を続けて欲しい。新型コロナウイルスも含め、インフルエンザ等感染症予防の取り組みをしっかりと行って欲しい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 将来の夢を自ら見定め、自立・実現していく力を育む</p>	<p>(1)わかる授業、進路実現を見据えた授業をめざし、授業改善に取り組む。</p>	<p>(1)ア、英・数・国の3教科において習熟度別授業を設定し、また補習・講習講座を充実させていくことで、苦手科目の克服、得意科目の伸長を図る。 自習・講習・模試検定の「場」を拡大し、ひねのプログラム運用により生徒の自主学習の状況確認を継続する。</p> <p>イ、実践的な専門演習を継続し、地域連携強化のもと、外部人材のプロ精神と技術を体験的に学習する。</p> <p>ウ、ICT教材や設備を活用し、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の開発授業を研究・推進する。反転学習やペアワーク等の導入を推進し、生徒の発話機会を拡大させ、コミュニケーション能力の向上に繋ぐ。</p> <p>エ、語学、歴史教育や政治的教養、読書活動など多様な体験的な学習機会を通じ異文化や異なる価値観への理解を深め、幅広く自らの進路選択に繋げる。</p>	<p>(1)ア、自主学習時間2時間を達成する。(H30 83分)</p> <p>イ、地元医療機関やこども園等での体験活動を継続する。</p> <p>ウ、「ICT活用授業を行った教員への満足度」97%(H30 97%)。生徒の「プレゼンテーション能力向上満足度」75%(H30 73.9%)。ビプリオバトル大会を学校全体で推進する。</p> <p>エ、海外の教育連携校や地元の国際交流機関等との連携を行う。</p>	<p>ア.毎月意識調査の実施、自主学習時間の平均75分() 漢字検定 113名受験(合格者2級3名、準2級21名、3級12名)、英語検定 61名受験(合格者2級2名、準2級9名3級受験なし)、P検(ICTプロフィシエンシー検定試験)3級26名合格 次年度は教科との連携も行き、自主学習時間の目標達成をめざす</p> <p>イ.ひねのこども園での保育体験実習(授業)、保育5日間体験(夏休み)13施設2年10名、3年19名参加、看護体験(夏休み)5施設2年33名参加、特別授業(解剖学)、洗髪介助実習、「読み聞かせ」(保育関係10/23)、園児との交流(こども園杉の子、こども園つばさ)、CSP講座(保育関係)等の実施()</p> <p>ウ.「ICT活用授業を行った教員への満足度」86%(設問内容変更)、生徒の「プレゼンテーション能力向上満足度」68%、図書館主催ビプリオバトル実施(8月末)、校内ビプリオ大会(10/18 12年国語授業)の実施、学校教育自己診断の数値は下がったが、ビプリオバトルを中心とした取り組み内容は充実実施できた() 情報、国語など授業でさまざまなプレゼン実施、図書だより等を発行し、読書活動を推進 オープンスクールで生徒によるプレゼンおよび案内</p> <p>エ.11月実施の海外修学旅行に向けて、大阪観光大学の台湾人留学生を招聘し、台湾の紹介や質問を中心とした交流を実施、1年間フランスに留学していた生徒が7月に帰学、タイ日本語教師との交流、海外修学旅行の実施(台北 現地高校生との交流等)()</p>
	<p>(2) 特色ある専門コースを持つ普通科高校として、自己実現性の高い進学を志向する。</p>	<p>(2)ア、新学習指導要領と高大接続改革を踏まえ、選択性と専門性を兼ね備え、生徒のニーズに適合したより選択的なカリキュラム編成を行うとともに、それを的確にガイダンスし運用する管理者を設ける。</p> <p>イ、コース選択時の生徒満足度を上げるとともに、特色ある専門コース選択をする生徒へのガイダンスをバランス良く行う。</p> <p>ウ、世界を相手に飛翔するグローバル人材、国際感覚を身に付けて地域社会に貢献するグローバル人材をバランス良く輩出する。</p> <p>エ、もっと入りたい学校への魅力づくり。アドミッションポリシーに合致する入試志願者を安定確保する。</p>	<p>(2)ア、「コース・科目選択に関する満足度」88%(H30 87.8%)「ガイダンスに関する満足度」90%(H30 90%)</p> <p>イ、専門コース選択比率目標 40% アドバンスト人文社会 15%(H30 12.5%) 子どもみらい 10%(H30 6.0%) 看護メディカル 15%(H30 19.5%)</p> <p>ウ、国公立大学・難関私立大学(関関同立+近+関西外)の進学者数40名。児童保育系進学者数40名超。看護医療系進学者数50名超。センター受験者数50名(H30 44名)選択した科目が進路実現に役立った80%(H30 77.3%)</p> <p>エ、入試志願倍率 1.2倍超(H30 1.21倍)</p>	<p>(2) ア.「コース・科目選択に関する満足度」87%「ガイダンスに関する満足度」92%() 次年度は新学習指導要領の調査、研究を深め、計画的に教育課程の編成を行う</p> <p>イ.専門コース選択比率 アドバンスト人文社会(48人・10.1%)、子どもみらい(20人・4.2%)、看護メディカル(95人・20.0%)() 次年度は令和3年度よりの専門コースおよび関連する教育課程の見直しを行う</p> <p>ウ.国公立大学・難関私立大学(関関同立+近+関西外)の合格者数13名、児童保育系合格者数24名。看護医療系合格者数68名、センター受験者数24名 選択した科目が進路実現に役立った80%()</p> <p>エ.入試志願倍率 1.12倍() オープンスクールの実施、参加者 中学生394・保護者120・計514人、中学PTA協議会主催学校説明会、中学校・学習塾訪問、大阪府主催学校説明会、校長会主催学校説明会、個別学校訪問対応等</p>
	<p>(3)進路に夢や希望を抱き、社会の一員として自立し、その発展に寄与するという高い志を身につける。</p>	<p>(3)ア、「ひねのプログラム」を活用し生徒の学習意欲の向上を図るとともに、志学と道徳教育、キャリア教育教材の質を高め共通化することで教員の働き方改革に取り組む。</p> <p>イ、分野別進路説明会や進路適正検査・面接試験指導に注力し進路選択のミスマッチを回避する。</p> <p>ウ、社会保険労務士講座、司法書士講座等、外部人材を活用し、進路実現に繋げる。</p>	<p>(3)ア、「進路選択やキャリア教育に関する満足度」93%(H30 92.5%) 「学校ストレスチェックの総合リスク値の改善」100以下(H30 92)</p> <p>イ、「キャリアガイダンスセンター入室者数拡大」1800名/4-12月 (H30 1,488名)</p> <p>ウ、キャリアサポート団体等との連携活動を行う。</p>	<p>(3) ア.「進路選択やキャリア教育に関する満足度」91% 「学校ストレスチェックの総合リスク値の改善」105() 次年度も働き方改革の取り組みを継続すると共に、分掌等の仕事の分担について検討する</p> <p>イ.キャリアガイダンスセンター入室者数1618名() 23年対象分野別進路説明会大学24・専門学校11・公務員・就職)、看護医療学校説明会(8校)、夏季休業中にオープンキャンパス等見学、12年対象進路ガイダンス講座等の実施</p> <p>ウ.社会保険労務士による出前授業「労働について」、着こなし講座(国語表現授業)実施()</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>2 道徳教育・人権教育を基盤に、地域社会と連携しまた貢献する志と力を育む</p>	<p>(1) 「いじめ防止基本方針」の実施と道徳教育を推進する。</p> <p>(2) 急速に普及するスマートホンに係るネットと人権侵害理解についての取組みを推進する。</p> <p>(3) 部活動や各種の地域ボランティア活動への参加を通じ、生徒の社会的貢献を図る。</p> <p>(4) 学校運営協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取り入れるとともに、HP やメールマガジンで学校の取組みを情報発信する。</p>	<p>(1)ア、「いじめ防止基本方針」に従い「いじめ防止対策委員会」を立ち上げ、年間計画に沿って実施する。</p> <p>イ、社会性に繋がる生活習慣の確立、挨拶励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成。</p> <p>ウ、障がい者・女性・子ども・同和問題・在日外国人・性的マイノリティ等様々な人権教育を行う。</p> <p>(2)ア、インターネット上の諸問題(ツイッター、ライン等)の事例を多く取り上げ、現実性をもたせながら指導する。情報と社会授業や各学年 HR 等で、その問題に対する取組みを継続する。</p> <p>イ、保護者への啓蒙活動も含め、家庭・学校間の連携を深めた人権教育を展開する。</p> <p>(3)ア、生徒会やボランティア部を中心とした生徒主体による地域での社会貢献活動の取組みを推進する。 ・OSAKA あいさつ運動の実践</p> <p>イ、学校周辺の商業施設や学校と連携し、部活動の発信発表の場を多く設けることで、社会貢献の意義や尊さを理解する。 ・吹奏学部(小中大での訪問演奏・合同演奏、商業施設でのタイアップ演奏等) ・美術部(商業施設や文化施設での展示発表) ・茶道部(商業施設での国際交流連携)</p> <p>ウ、「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則り、生徒や指導教員にとって合理的で効率的・効果的な部活動を推進する。</p> <p>(4)保護者向け学校教育自己診断において、教育活動に対する満足度を更に向上させる。 ・学校情報の一斉メール配信システムの有効利用。 ・学校自己診断や授業アンケートの分析方法の再検討。</p>	<p>(1)ア、生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があったに関する満足度」82%。(H30 80.7%)</p> <p>イ、延べ遅刻者数 2,800 人/4-12 月(H30:3,584 人)</p> <p>ウ、人権学習のひねのプログラムへの組込みを行う。</p> <p>(2)ア、様々なマイノリティへの理解を深める教育をし、「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった」とする満足度を 82%。(H30 80.7%)</p> <p>イ、保護者向け「教育相談に関する満足度」85%(H30 82.9%) ・保護者向け人権学習会の開催 1 回。(H30 1 回)</p> <p>(3)ア、日根野駅前、近隣商業施設等において、OSAKA あいさつ運動を実践する。</p> <p>イ、部活動加入率 75%(H30 74.2%)</p> <p>ウ、学校の運動部活動に係る活動方針を作成・管理し遵守励行する。</p> <p>(4)保護者向け学校教育自己診断における「教育活動に関する満足度」85%(H30 82%) 「教育情報についての提供努力満足度」88%(H30 87.4%)</p>	<p>(1) ア. 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があったに関する満足度」83%() 全職員に対し「いじめ防止基本方針の再確認」、いじめ防止対策委員会 6 回実施、いじめに関するアンケート 3 回実施 次年度も定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、いじめの防止および対策に努める</p> <p>イ.遅刻者数 3355 人()、みだしなみ指導、通学路指導の実施(毎月初め) 次年度に向けて遅刻指導の方法を見直す</p> <p>ウ.人権学習 HR の実施(情報モラル(1 年)、多文化共生(2 年)、同和問題(3 年)) 1 年人権読書感想文発表会、1 年人権映画(子どもの人権)、2 年人権講演会(外国人)、3 年人権学習(障がい者理解 体験型)</p> <p>(2) ア.情報の授業、学年集会、HR 等で実施() 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があったに関する満足度」83%()</p> <p>イ. 保護者向け「教育相談に関する満足度」87% PTA・職員合同人権研修(SNS 関係)1 回実施() 次年度は教育相談に関する情報を発信する機会をさらに増やす</p> <p>(3) ア.ボランティア部の活動として玄関前に花の道作成(6 月・11 月)、佐野支援学校とのクラブ交流実施、ペットボトルキャップ回収運動、RUN 伴ボランティア(認知症理解)への参加、OSAKA あいさつ運動の実施等()</p> <p>イ.部活動加入率 66%(1 年 72%、2 年 65%、3 年 61%)() 次年度は新入生歓迎クラブ紹介の内容を変更し、特に 1 年生の加入率を高める</p> <p>・美術部大阪府高等学校美術・工芸展での作品展示 優秀賞受賞、書道部全国硬筆作品展覧会大阪府議会議長賞受賞等、書道部大阪府高等学校書道展での作品展示、美術部作品イオンモール展示等</p> <p>ウ.部活動方針に則り、効率的・効果的部活動の実施() 女子バレー部近畿大会出場 ダンス部全国大会出場(4 位) 吹奏楽部大阪府吹奏楽コンクール大阪府大会出場 水泳部近畿大会出場</p> <p>(4) 保護者向け学校教育自己診断における「教育活動に関する満足度」80%、「教育情報についての提供努力満足度」88%() 今後さらに、進路関係の情報などを保護者へ情報提供を積極的に行うと共に、保護者等の意見を教育活動に取り入れる。</p> <p>メール配信および Web ページでの情報発信 保護者へのメール配信 146 通、保護者の登録(1 年 100%、2 年 100%、3 年 77%)、ブログの更新 122 件、Web ページアクセス数 18,973 件</p>
<p>3 生徒理解を促進し相談体制を充実させる</p>	<p>(1) 全教職員が、障がいのある生徒への理解を深めつつ、自立を支援する合理的配慮やケアを行い、スクールカウンセラーとの効果的な連携を図る。</p> <p>(2) 生徒がより相談しやすくするため、地域の福祉医療関係部署との連携のもと、生徒の相談窓口の複数化と水平連携を行う。</p> <p>(3) 感染症・食中毒・薬物中毒の予防や防止、熱中症や食物アレルギー等による事故防止を確実にする。</p>	<p>(1) 生徒支援カードをもとに、支援を要する生徒について支援計画を作成し、情報収集と個別の支援内容を検討する。</p> <p>(2) 体罰・ハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談体制を構築し、生徒に周知徹底する。</p> <p>(3) 予防・防止への啓発活動、啓発教育を推進し、正しい知識を普及する。</p>	<p>(1) 生徒支援カードを作成する。</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断における「教育相談に関する満足度」75%(H30 74.8%)</p> <p>(3) うがい手洗いの啓発ポスターやチラシの掲示・配布。 薬物乱用防止教室、熱中症予防講習の実施。 食物アレルギーに関する情報を関連する教員間で共有する。</p>	<p>(1) 支援カードより情報収集、支援を要する生徒に対して支援計画を作成し、個別の支援の実施、3 年生 1 名に加え、1 年生で 1 名介助が必要になり、支援のための介助員配置等を行う()</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断における「教育相談に関する満足度」72%() 「いじめ、セクハラ、体罰等」についてのアンケート実施、相談窓口の周知 次年度は教育相談に関する情報提供を増やす。</p> <p>(3) 薬物乱用防止教室実施(1 年)、教員対象および生徒対象の熱中症予防を含めた救命救急講習の実施、食物アレルギー等生徒の健康に関する情報の共有、教育相談関係職員研修実施()</p>